

経営の基本方針

宮津市水道事業ビジョンの基本理念「安全でおいしい水をいつまでも」のもと、水道は、市民生活や経済活動に欠かすことのできない重要なライフラインであり、「地域における共有財産」であることから、市民のみなさんと水道事業の将来像及び収支見通し等を共有し、市民のみなさんと共に水道事業の経営を行っていく。

施設整備計画

		法定耐用年数で更新 <ケース1>	厚労省使用年数で更新 <ケース2>	水道施設整備計画に基づく更新	<ケース2>と比較した削減効果額
更新費用見込み	50年間合計	493.1億円	324.6億円	216.5億円	▲108.1億円
	50年間平均	9.9億円	6.5億円	4.3億円	▲2.2億円

①水道管路の長寿命化による更新年数の延長、②浄水施設の延命化利用、③浄水施設の統廃合、④小規模集落地域における小型浄水処理装置導入の検討 により、年間の必要投資額を約4億円に縮小。

経営戦略について

投資目標

1 市街地給水区域の浄配水場の耐震化

上宮津浄水場・配水池及び滝上配水池の耐震化、栗田浄水場及び由良浄水場の耐震診断業務を実施します。（目標：令和11年度（2029年度）までに実施）

2 漏水多発区域を中心とした老朽管の布設替

漏水多発区域を中心に、老朽化した経年管の布設替を実施します。
（目標：有収率+5%）

3 重要施設（給水施設）ルート耐震化

災害時給水施設となる重要施設までのトータルルート（送水管、配水管）としての耐震化を図ります。

（目標：令和11年度（2029年度）までに20箇所）

財源目標

1 収益的収支における単年度損益の黒字化及び収益的収支における累積損失を5年以内に解消

単年度の収益的収支において損益の黒字化を図るとともに、累積損失を5年以内に解消できるよう、早期に収入の確保を図ります。

なお、水道使用料金の見直しにあたっては、原則5年ごとに「水道使用料金等審議会」へ諮問します。（ただし、社会情勢や事業運営状況等によって、審議会へ諮問する年度は検討）